

8 図画工作・美術

○概要

- ・ 図画工作科，美術科の目標と内容を段階別に記載しています。
- ・ 今回の改訂で，「表現」「材料・用具」「鑑賞」の内容構成を，「A表現」及び「B鑑賞」の二つの領域と〔共通事項〕に改めています。
- ・ 教科の目標及び各段階の目標を受けた内容は，「A表現」と「B鑑賞」及び〔共通事項〕が三つの柱に沿った資質・能力の整理をふまえて構成されています。
- ・ 「A表現」と「B鑑賞」は，本来一体である内容の二つの側面として，図画工作科，美術科を大きく特徴付ける領域です。〔共通事項〕は，この二つの領域の活動において共通に必要な資質・能力であり，指導事項として示されています。
- ・ 「A表現」は「技能」や「思考力，判断力，表現力等」，「B鑑賞」は「思考力，判断力，表現力等」，〔共通事項〕は「知識」や「思考力，判断力，表現力等」（高1，高2段階は「知識」のみ）の育成を目指しています。

○表の見方及び留意点等

- ・ この表では，学習指導要領に記載されている内容をまとめるに当たって，「学習内容の概要」「目指す姿の例」「表現する対象」などの独自の項目を立て，段階毎にマトリックス状にまとめています。各段階の記載内容を読み解いて，各段階でどのような指導内容が求められているのかを見極める際の参考にしてください。
- ・ 学習指導要領に記載されている具体的な例を指導内容表に記載していますが，それは一例に過ぎません。各段階に合わせた内容について，材料や用具も含めてしっかりと検討する必要があります。
- ・ 段階毎に微妙に言い回しが異なる表現については，ゴシック体で表記しています。

○指導計画の作成に当たって

- ・ 各段階において，必要な経験などに考慮しながら，それぞれにふさわしい内容を選択して指導計画を作成し，目標の実現を目指すこととなります。
- ・ 指導計画の作成の配慮点として，児童の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行うことや他教科や特別活動等との関連を図り，総合的に活動することで，指導の効果を高めることなどが挙げられています。
- ・ 図画工作科，美術科の目標を実現するためには，3つの資質・能力を相互に関連させながら育成できるようにすることが大切です。

図画工作・美術					
目標		表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
知識及び技能		(1) 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。			
思考力、判断力、表現力等		(2) 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。			
学びに向かう力、人間性等		(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。			
段階		小1段階	小2段階	小3段階	
各段階の目標	知識及び技能	ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	
	思考力、判断力、表現力等	イ 表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	イ 表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	
	学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることににより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるなど、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	
内容	各段階の内容	内容	ア 線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考力、判断力、表現力等	(7) 材料などから、表したいことを思い付くこと。	(7) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	(7) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。
		知識及び技能のうち技能	(イ) 身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。	(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。
	A表現	学習内容の概要	・目で見る、手で触れる、力を加えて可塑性を楽しむといった遊びを展開する。	・経験したことから感じたこと、関心のあることから想像したこと、見たことをかいたりつくったりする。	・形や色などを工夫してあらわしたり、想像したことなどを表現するために、何を表したいのか明確にして、かいたりつくったりする。
		目指す姿の例	・かいたりつくったりするとき、手指や体の動きによって自然に出てきた形や色などに気付いている。	・自分のイメージを基に、児童自身が表したいことを思い付いたり、見付けたりしている。 (大きいと感じた動物はより大きく、赤いと感じた色はより赤く、小さなものや関心の低いものは表現の対象から除かれる。)	・好きなものを絵に表すとき、クレヨンやパスの色を選び、表し方を工夫して表している。 ・思い浮かべた花を紙で表すとき、紙の切り方を工夫して表している。 ・乗ってみたい乗り物を表すとき、粘土を丸めたりひねりだしたりするなど工夫している。

図画工作・美術

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
(1) 造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。		(1) 造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	
(2) 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。		(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	
(3) 創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。		(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	
中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
ア 造形的な視点について気付く、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	ア 造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。
イ 造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	イ 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。	ウ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	ウ 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、つくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
(ア) 経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	(ア) 経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	(ア) 対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
(イ) 材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	(イ) 材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。	(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。	(イ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を追求し、自分らしさを発揮して表すこと。
・意識を働かせて何かを得ようとしたり、自分の感覚を大切に日常生活の中から価値などを創出したりする。	・自分の表したいことや用途などを考えながら、それを基に、新しいことを考えて発想や構想をする。	・感じ取ったことや考えたことなどから生み出された主題を基に、構成を創意工夫して発想や構想を練る。	・感じ取ったことや考えたことなどから生み出された主題を基に、自己の心を見つめて考えたことを十分に取り入れながら構想を練る。
・経験したことや思ったこと、材料などから、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描いている。	・どの色とどの色が合うのかを考えたり、仕掛けや動く仕組みを工夫したり、表したいことに合った材料を集めたりしている。	・自然や人物、動植物、身近にあるものや、出来事などに対して、感性を豊かに働かせることによって形や色彩の特徴や、それらがもたらす様々なよさ、雰囲気、情緒、美などを感じ取っている。 ・体験などを基に感じたことや考えたこと、実際にはあり得ないこと、自分の思いや願いを思い浮かべている。	・感性や想像力を豊かに働かせながら対象や事象を深く見つめ、形や色彩などの特徴やイメージ、対象の内面や全体の感じ、生命観や心情などから生じた思いや考えなどを感じ取っている。

図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階
内容	A 表現	表現する対象 ・身近にある砂や水、紙や木などの材料に対して、手や体全体を使って自発的に働きかける。	・身近な人、動植物、自然、体験したことなどを題材に表現する。	・学校行事、社会の行事、自然現象の体験、親しみのある話などを題材に、共同でかいたりつくったりする。
		具体的な表現方法の例 ・素材そのものに触れて楽しむように遊ぶ。 ・つぶす、伸ばす、ちぎる、丸める、破る、接合する、積み上げる、崩す、並べる、穴をあけるなど、手や体全体を働かせてつくる。	・クレヨンやパス、水彩絵の具、カラーペンなどを使って表現する。 ・器物の型を押したり、スタンピングを連続して模様をつくったりする。 ・土、紙材、草木、アルミ箔、箱、空き缶などを用い、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベルなどを使って、表したい形をつくる。	・学校行事で使う飾りや用具を協力してつくる。 ・児童が自分の表したいことを基に技能を働かせる。 ・様々な材料を用いたり、用具を使ったりする中から感じたことを生かしながら表す。
		表現に関する配慮事項 ・造形遊びなどをするによって、形や色などに気付いたり、興味や関心をもったりする中で、表現の楽しさを体感していくということを大切にする必要がある。	・かいたり形をつくったりする活動が豊かになることに留意する。	・感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことを互いにつながりのあるものとして捉え、指導に生かすことが必要である。 ・造形的な創造活動を目指していることを踏まえ、具体的なものの形や色などを単に再現することを強いるものではない。
		材料 ・そのものの自体の形は変えにくい、並べたりつないだりすることや、ちぎったり丸めたりするなど、そのものの自体の形を変えることを思い付きやすいもの。 ・身の回りにある土、粘土、砂、小石、木の葉、小枝、木の実、貝殻、雪や氷、水といった自然物。	・土、砂、石、粘土、草木などの造形遊びでかかわる身近な自然物。 ・紙、新聞紙、段ボール、布、ビニル袋やシート、包装紙、紙袋、縄やひも、空き箱、スチレンボード、プラスチックなどの人工の材料。	・土、砂、石、粘土、草木などの自然物や、紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなどの人工物。
		用具 ・手指そのもの。 ・棒きれなどたまたま手にしているものがペンやクレヨンなどに代わることもある。	・クレヨンやパス、水彩絵の具、カラーペン、のり、粘着剤、ステープラー、はさみ、へら、シャベル。	・2段階に例示したのものに加えて、かなづち、ペンチ、のこぎり、彫刻刀、くぎ、ねじ、粘着剤など日常生活で扱われる簡易な木工加工用具、金属加工用具。
		材料や用具の使用に関する配慮事項 ・素材そのものに触れて楽しむような遊びや、造形材料の可塑性に気付き手や体全体を働かせてつくることが大切である。 ・造形遊びの楽しさを味わうことのできる活動が展開できるようにする。	・意図に合う材料・用具を選択したり、使い方を工夫したりし、材料や用具に関わる時間を十分にとることが必要である。 ・児童が手や体全体の感覚などを働かせていろいろな材料に触れ、材料を扱う楽しさを味わい、「もっと使ってみよう」という関心や意欲をもつような機会を設定することが大切である。	・繰り返し経験することで、材料の性質がわかり、用具の使い方を習得するとともに、材料・用具の選択や使い方の工夫をする。 ・生活経験や発達によって異なる一人一人の表現能力を一層伸ばせるよう、児童個々に必要な材料や用具を整えることが大切である。

図画工作・美術

中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
・ 静物や風景の観察や描写，学校行事や社会行事などの印象，想像画，ポスター，案内表示，標識，表紙装丁，デザイン，カット，模様・装飾，彫刻や立体の題材としては，人，動物，乗り物，建物，工芸品としては，箱，筆立て，ペン皿，焼き物の器物など。	・ 直接経験したことだけでなく，想像したことを題材として表現する。	・ 人物や動植物，静物や風景を観察や描画をしたり，学校行事や社会行事などを印象・想像画を題材として表現する。	・ 社会的な出来事や場面，学校に関わる人々や地域の人々などに目を向け，主体的に地域や社会に働きかけるような学習活動等を題材として表現する。
・ 自然の形や幾何学的な形を並べたり，繰り返したりして，表現する。 ・ 知らせる事項を考え，形や色彩の組み合わせを工夫するなどして伝達機能をもつポスターなどの平面デザインとして表現する。 ・ 塑像や焼成工程のある器物の活用，いろいろな造形材料の性質を生かした加工，塗装加工などをする。 ・ 水彩絵の具を使いながら水の加減や色の混ぜ方を工夫したり，金づちを使いながら，釘を並べるように打ったりする。	・ 一人一人の生徒が心に思い描いたことを簡単な絵や図でかきとめたり，直接材料を置いて表し方やつくり方を決めたりする。	・ 絵に描く，版画にする，目的や用途に合わせたポスターや表示物をデザインする。 ・ 彫刻などの立体に表す，生活に役立てる器物や装飾品などをつくる。	・ 使用する多くの人たちの気持ちや身体に優しいデザイン，多様な人々が共有できる機能について考える。
・ 自分が一番表したいことを，およその表したいことも含めて捉える必要がある。 ・ 鑑賞の学習と関連させて自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞をすることにより，表したいことを見付けたり表し方を考えたりできるようにすることが大切である。	・ 明確な手順通りに表すだけでなく，試しながら表したり，次第に表したいことや用途などが明確になったりするような指導を工夫する必要がある。	・ 生徒に身の回りの具体的な出来事や場面，人々が生活する姿に目を向けさせ，主体的に周囲に働きかける学習活動を通して，気持ちや情報を伝える楽しさを味わわせる。	・ 表現方法から構想を練る際には，材料，表現方法，構想内容が技術的に可能なかななどを十分に検討しておく。 ・ 表現方法を試す場の設定や，性質や特徴の違う材料を複数準備するなどの条件整備を整えておく。
・ 粘土，紙，石，木，布，金属，プラスチック，スチレンボードなど。	・ 粘土，紙，石，布，木，金属，プラスチック，スチレンボード，建築，土木工業用資材など。	・ 粘土，木，石，紙，布，金属，プラスチック，スチレンボード，ニス，水性・油性塗料など。	
・ 描画では水彩絵の具やポスターカラー，色鉛筆，ペン，パステルなど。立体では彫刻刀，金づち，のこぎり，電動糸のこぎりなど。	・ 水彩絵の具，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡単な木材・金属加工用具電，動糸のこぎりや研磨機などの電動工具など。	・ 水彩絵の具やポスターカラーの具，墨，色鉛筆，ペン，パステル，色紙，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡易な木材・金属加工用具，糸のこ盤や研磨機などの電動工具など。	
・ 道具・機械等の取扱いや安全・衛生に関する指導と合わせて，安全への関心を高め，適切な使用により，表現の活動が一層楽しくなることを経験できるようにする。 ・ 材料の中から表現に合う素材を選択し，その特徴と使い方や用具の扱い方を理解し，生かしていくことができるように体験を積み重ねていくことが必要である。	・ これまでの経験を提示物や画像などから振り返る時間を設定したり，新たな材料や道具との出会い方を工夫したりしながら，生徒自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付くようにする。 ・ 用具の操作の難易度が，生徒の手指等の機能や活動に対する理解の状態に応じたものであることに留意する。	・ 生徒の意図に応じて工夫して表すためには材料や用具の生かし方だけでなく，形や色彩の生かし方なども身に付けることが必要である。	・ 制作していく中で，生徒が「やってみたい，試してみたい」と思ったときに，材料や用具と自由に関わるような学習環境を工夫する。

図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階
内容	各段階の内容	内容	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。	
		思考力、判断力、表現力等	(ア) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。
	学習内容の概要		・自分たちの作品や身近な材料など、目の前にある対象を見る。	・身近にあるものを見つめたり、触ったり、手に取ったりすることを通して、その形を面白く感じたり、心地よいと思ったりする。
	目指す姿の例		・自分や友達の作品や造形活動で用いられる材料などを見たり触ったりしたときに、素直な驚きや喜びを感じている。	・自然に手を動かしながら材料の形を確かめたり、材料を並べたり、つないだり、積んだりしながら何かを思い付いたりしている。
	指導上の工夫		・見たり、触ったり、話したりするなど、自ら働きかける能動的な鑑賞活動を行う。	・作品を保管する棚や机を、作品置き場としてだけでなく、児童が自分の作品や友達の作品を鑑賞する場とする。
	鑑賞方法の例		・見たり、触ったり、話したりするなど、自ら働きかける能動的な鑑賞活動を行う。	・作品を保管する棚や机を、作品置き場としてだけでなく、児童が自分の作品や友達の作品を鑑賞する場とする。
	鑑賞に関する配慮事項		・児童の意欲や関心を重視するためには、日頃から児童の様子をよく見て、どのようなことに興味や関心をもっているのかを把握しておく必要がある。	・材料や触ってもよい作品などを鑑賞の対象として設定し、児童が様々な作品などを触ることができるようにすることも大切である。

図画工作・美術

中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
(ア) 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。	(ア) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(ア) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
(イ) 表し方や材料による印象の違いなどに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	(イ) 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。	(イ) 生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。	(イ) 生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
・対象を自分の見方や感じ方で捉え、そこに新しい意味や価値を発見するなどして、生活の中で生きて働く見方や感じ方を広げる。	・対象がもつ形や色彩などのよさや面白さ、美しさを自分なりに味わいながら、自分の見方や感じ方を深める。	・対象をじっくりと見つめる時間を大切に、自分の感覚で素直に味わうとともに、教師が示した課題や助言などを基に、形や色彩、材料などに視点を置いて感じ取ったりする。	・対象の形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、価値や情緒などを感じ取り、外形には見えない本質的なよさや美しさなども捉えようとする。
・対象や事象と自分の印象を分けて捉えたり、他の生徒の作品から自分の考えが異なる点を見つけてその思いを汲み取ったり自分の表現に生かしている。また、感じ取ったことや想像したことなどを誰かに話したり他の生徒と共感し合ったりしている。	・一人一人の生徒が自分の見方や感じ方を大切に、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい意味や価値をつくりだしている。	・作者の関心や発想、作品に込められた心情、その作品によって何を表現したかったのかという意図と、それがどのように表現されているかという工夫について考えている。	・主題などに基づき、作品の背景を見つめたり自分の生き方との関わりの中で作品や制作に対する姿勢を捉えたりするとともに、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして鑑賞の視点を豊かにし、見方や感じ方を深めている。
・生徒が自分で見つけたよさや面白さを、生徒自身が自ら気づくようにし、鑑賞の学習だけでなく、表現の学習にも生かせるように工夫する。	・実物と直接向かい合い、作品のもつよさや美しさについて実感を伴いながら捉えさせることができない場合は、大きさや材質感など実物に近い複製、作品の特徴がよく表されている印刷物、ビデオ、コンピュータなどを使うなどの工夫をする。	・作品が表している内容や形、色彩、材料、表現方法などから、生徒が自分の感覚や言葉で感じ取れるように助言や指導を工夫する。	・生徒が鑑賞の学習を通して考えたことや、発想や構想したことを表現の学習に生かしたり、表現した作品を相互に鑑賞し合ったりするなど、鑑賞と表現が関連し合いながら繰り返されるように指導を工夫する。
・形や色彩に着目し、造形の要素の働きを捉えさせることで見方や感じ方を広げられるようにする鑑賞活動を行う。	・自分たちの作品や美術作品を進んで見たり、触ったり、他の生徒と感じ取ったことを話し合ったりするなど、自ら働きかける鑑賞活動を行う。	・身の回りにある身近な風景や自然現象、街で見られる人工物などの形や色彩、材料などに視点を置いて意識して捉え、造形的な美しさを感じ取ったり、文化遺産などの特性やよさに気付いたりする鑑賞活動を行う。	・動植物や自然物、四季や自然現象、風景などの自然や、公園や建造物、街並みなどの環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取ったり、独自の文化を生み出してきた日本の美術文化のよさを味わったりする鑑賞活動を行う。
・完成した作品だけでなく、後日の学習の初めに途中の作品を見合う時間を取り入れることや、授業時間以外でも制作途中の作品が鑑賞できるようにする。	・校外学習などと関連させて美術館を見学したり、校内の作品展などを開催し、自分たちの作品を重点的に鑑賞したりできるようにする。	・鑑賞の活動に必要な地域の人材や施設等の活用を図り、実感の伴う学びを実現することで、積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めたり、見方や感じ方を広げたりする。	・異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに、作品に対する生徒の興味・関心をより高めたり、いくつかの鑑賞の視点を設定したりしながら、生徒それぞれに多様な見方や感じ方ができるようにして、鑑賞を深めていけるような配慮をする。

図画工作・美術

段階		小1段階	小2段階	小3段階
内容 〔共通事項〕	内容	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」	(7) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。	(7) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。	(7) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。
	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」(高1, 高2段階は「知識」)	(4) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(4) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(4) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。
	学習内容の概要	・目の前にある対象の形や色を捉える。	・砂や粘土、紙などの材料や自分たちの作品などを自分の視覚や触覚などの感覚で捉える。	・絵の具や板材などの材料や自分たちの作品などを自分の視覚や触覚などの感覚で捉える。
	行為や活動の概要	・自分が見たり触ったりして感じたことや、並べたり、積んだりするなどの行った活動。	・並べたり積んだりするなどの行為や活動。	・混ぜたり切ったりするなどの行為や活動。
	目指す姿	・感じたことや行ったことを通して、形、線、色、触った感じなどに気付く。 ・形や色などに着目して活動する。	・形や色などを比べて選ぶ、様々な材料に触れるなどの、多様な学習活動を通して、楽しみながら形や色などの違いに気付く。	・感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどに気付く。(形の柔らかさ、色の暖かさ、色の組合せによる優しい感じ、面と面の重なりから生まれる前後の感じ、色の明るさによる感じの違い、質感など)
	目指す姿の具体的な例	・材料の大きさを自分の体と比べている。 ・ふわふわした材料の感触を体中で味わっている。	・形や色などが似ているか、似ていないか、大きい、小さい、長い、短い、丸、三角、四角など大まかなまとまりで捉えたときの違いに気付いている。	・絵の具を混ぜたり水量を考えたことで色の感じの違いに気付いている。 ・様々な板材を組み合わせることで形を組み合わせた感じに気付いている。 ・様々な材料に触れ選ぶことで材料の質感に気付いている。
	イメージについて	・社会や大人のもつ知識や習慣を受動的に理解することではなく、自分の感覚や行為とともにイメージをもつ。	・社会や大人のもつ知識や習慣を受動的に理解することではなく、自分の感覚と行為が一体であるようなイメージをもつ。	・形や色の感じ、自分の思いや経験など、様々な手掛かりを基にイメージをもつ。
	イメージの例	・自分の手の動きから生まれた線を「ぐんと伸びている」と感じたり、色が「ぱっと広がる」と感じたりする。	・浮かんでいる雲を「わたあめみたい」と話したり、色水を混ぜて、「ジュースみたい」とつぶやいたりする。	・「材料が白くてふわふわしていたから、ウサギを思い付いた」、「絵の具のにじんだ様子を生かして不思議な世界を表した」、「粘土をかき出して大きな穴を開けたら、穴の中に住む生き物を思い付いた」など、具体的である。

図画工作・美術

中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階
ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。	(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。	(ア) 形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。	
(イ) 造形的な特徴などからイメージをもつこと。	(イ) 造形的な特徴などからイメージを捉えること。	(イ) 造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	
・形や色彩などの特徴に気が付き、それが表現したり鑑賞したりするときの手掛かりになることに気付いたり知ったりする。	・形や色彩などの特徴について理解し、それらの特徴について表現したり鑑賞したりするときの手掛かりにする。	・作品や身の回りの生活の中の形や色彩などの要素や全体に意識を向けて着目したり、造形の要素の働きやイメージを捉えたりする。	・表したいイメージを捉えて、豊かに発想し構想を練ったり、作品などからイメージを捉えて豊かに鑑賞したりする。
—	—	—	—
・表現及び鑑賞の活動の学習過程を通して、個別の感じ方や考え方等に応じながら活用したり身に付けたりする。	・対象などの形や色彩などの造形の要素に着目し、感覚や行為を働かせながら、それらの特徴について表現したり鑑賞したりする。	・造形を豊かに捉える多様な視点をもつ。	・形や色彩、材料、光などの働きや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉える。
・自分が感じたイメージを他者と伝え合ったり、根拠について話し合ったりするなどして、他者とイメージを共有したり新たな視点に気付いたりしている。	・「ここは動いている雰囲気にしたいくらいよく描こう」や「この材料とこの材料を組み合わせると、見た印象はどうなるだろう」など豊かに発想し構想を練っている。 ・「ずっと奥にいけるような感じがする」「絵の具で描いているのに、布を張ったように見える」など、見方や感じ方が深まっている。	・視覚や触覚等で、色彩の色味や明るさ、鮮やかさや材料の性質や質感を感じている。 ・形の優しさ、色の楽しさや寂しさ、木の温かさ、光の柔らかさ、形や色彩などの組み合わせによる美しさなどについて心で感じ取っている。	・作風や様式などで捉えるということの理解から、全体を文化的な視点から捉え、美術文化について見方や感じ方を深めることにもつながっている。 ・直感的な捉え方を重ねることを大切にする中で、一人一人の独自の造形的な視点が豊かになり、自分らしい見方が育っている。
・作品などの全体に着目させて、造形的な特徴などを基に見立てたり、心情と関連付けたりしてイメージをもつ。	・形や色彩などの部分だけに着目するのではなく、作品などの全体に着目して、造形的な特徴などからイメージを捉える。	・造形的な特徴などを基に見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉える。 ・作風などの視点で捉えることなどについて、実感を伴いながら理解できるようにする。	・対象を具体的に見立てたり心情などと関連付けたりするなど全体のイメージで捉える。
・造形的な特徴などから何かに見立てたり、「かわいい」「寂しい」の心情と関連付けたりすることで、具体的に自分なりのイメージをもつ。	・造形的な特徴などから「この木の葉は手に見える」などのように見立てる。 ・「絵から感じられる寂しさが、夕焼けの景色を見た情景と似ている」など心情と関連付けてイメージを捉える。	—	・「霧のかかった景色が水墨画のようだ」、「この作品は印象派の雰囲気がある」、「ラッパを見て花びらのように見えた」などと見立てる。

